

創造・誇り・愛！ 輝く七中 ^{きら} 煌めけ生徒！！



とらのき

立川市立立川第七中学校

校長 渡辺 政彦

学校だより

第2号

令和3年5月13日

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511~3 FAX (042) 531-6103 URL <http://www.tachikawa.ed.jp/jh07/>

凡 事 徹 底

校長 渡 辺 政 彦

5月の連休も終わり、いよいよ学校も本格的な活動が始まりました。新型コロナの影響も心配ではありますが3週間後には運動会があります。今後、学校行事が忙しくなるので、気持ちを切り替えて学習と学校行事の両立を図り、ともに充実させてほしいと思います。

今回はこれからの学校生活に期待することとして、「凡事徹底（ぼんじてってい）」について触れたいと思います。「凡事徹底」とは、何でもないような当たり前のことをしっかりと行うということで、その積み重ねが大きな違いを生み出すという意味も暗に含んでいます。私も生きていく上で、とても大切なことと思っています。

自動車用品大手のイエローハット創業者の鍵山秀三郎（かぎやまひでざぶろう）氏は自転車での行商からスタートした会社を年商数百億円の規模にまで育てた人ですが、そのような鍵山氏が日々実践していたのがこの“凡事徹底”です。朝起きたら布団をたたむ、靴をそろえる、家の前を掃くなどの日常のちょっとしたことをきちっとやる。そして、会社のトイレなどの掃除を40年にわたってやり続けました。掃除ひとつにも心を込め、人に喜ばれることを徹底したといえます。

また、かつてパナソニックの創業者である松下幸之助氏も同様なエピソードがあります。それは、取引先の企業を訪問された時、売り上げや利益といった数字を見なくとも、その企業の経営がうまくいっているかどうかを瞬時に見抜いたという話です。松下氏の評価基準はいたってシンプルで、一つは従業員の「挨拶」、二つは「整理整頓」、三つは「トイレの掃除」です。この三つを見れば大体その会社の様子は判ると言われました。

私も「挨拶」は学校を写す鏡と考えていますが、先日の離任式で離任された先生方から思い出や生徒の皆さんに期待することなど様々な話があり、その中でも、共通に褒めていたのが「挨拶」でした。立ち止まって挨拶ができる学校というのは、他校にあまり例がなく、なかなかできることではないことで本当に素晴らしいことだと話をされていました。皆さんは七中の中で生活しているので、他の学校と比較することはできませんが、皆さんが普段している「挨拶」は本当に誇れることで、自然に行うことに大きな価値があります。挨拶の語源は「一挨拶（いちあい いちさつ）」禅宗の問答に由来した言葉で、「挨」は心を開いて近づく、「拶」も同様に、迫る、近づくという意味があり、挨拶は「心を開いて相手に近づく」という意味があり、茶道でも、素直に挨拶ができることは、人間社会の秩序の基であるとの教えがあります。皆さんが七中に入学して以来、先輩の挨拶の姿を見て自分たちもできるようになっていく、先輩から後輩へその想いを受け継ぐことで七中の秩序が創られていると思います。

また、他にも「授業」や「学校行事」など学校を観る視点はいくつもありますが、ぜひ皆さんには何気ない当たり前のことにも意識を向けてほしいと思います。授業前は準備をして待つ、黒板をきれいにする、机を揃える、ごみをひろう、困っている人を手伝うことなど決して目立つことではありませんが、そうしたことに目を向けて、コツコツと取り組むことにも実は大きな価値があります。現代社会には、目に見えるところを飾り立てたり、目に見え短期的な成果ばかりを追い求めたり、評価されたりする風潮がありますが、目に見えないところや目立たないところを磨き上げることもとても大切なことです。自分のできることをコツコツと継続する、それが積み重なり大きな成果を生むことにつながると思います。“何気ない当たり前のこと”をしっかりと行う「凡事徹底」を意識してほしいと思います。